

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000173		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホーム かがやきの里むつみ2号館・3号館		
所在地	北見市美芳町10丁目1番5号		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年、地域との関わりに力を入れ、目標だった保育園との交流もできました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175000173&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175000173&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成23年1月24日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業地域に控えた住宅街に立地する当事業所は3階建ての2階・3階がグループホームで、1階には法人のデイサービス事業所が併設されています。週1回、デイサービスへ通う利用者もあり、通所利用者との交流を深めています。居間・食堂はワンフロアで南向きに配置され、明るくゆったりとした造りで居間から直線上に廊下、居室、トイレ、浴室などがあり、職員はどの場所からも利用者を見守ることが出来るケアのし易い環境になっています。管理者・職員は前回の外部評価結果を真摯に受け止め、積極的に地域との関係の強化に取り組んでいます。町内会総会では「かがやきの里支援活動について」を議題に上げていただくなど、地域との協力の輪が広がり、利用者が安心して暮らせる地域作りを実現しています。保育園児との相互交流も実施され利用者が地域に出て行く機会が得られると共に、子ども達との触れ合いを楽しんでいます。運営理念に「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに」を掲げ、職員は利用者の尊厳に配慮し、利用者の出来る範囲で家事をこなすことや体操、歌を歌うなど“持っている力”を大切にケアの実践に努めています。職員・利用者双方に笑顔が見られ、明るく楽しい事業所になっています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で唱和している。	開設時からの理念を毎朝ミーティング時に唱和し、常に念頭に置きながら、日々のケアの中で実践できるよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事の手伝いや、日常的に地域の方との交流を心がけている。	町内会の一員として班長を引き受けたり、総会や町内パトロール等に参加しています。保育園児との交流や事業所行事(美芳館まつり)にも地域住民が参加するなど地域との関係作り積極的に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、話し合ったり、認知賞サポーター養成講座を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行い、話し合ったことは、サービスの向上に取り入れるよう努力している。	利用者家族・町内会役員・包括支援センター職員、内容により消防職員・訪問看護師・保育園園長等が参加し、2ヶ月に1度会議を開催しています。事業所の報告、認知症サポーター養成講座の開催や避難訓練の実施など、会議を有効に活用しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	努力している。	行政とは状況報告をする中で相談や情報交換に努め、連携を図っています。また、中央地区地域包括支援センターが主催する情報交換会を通じ、サービス向上に繋げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。鍵は、夜間、防犯上の理由で施錠する以外は、していない。	職員はマニュアルを通して身体拘束禁止事項を理解し、日々のケアの中で意識しながら取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、不適切なケアをしないよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば対応する。現在1名の利用者様が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解いただけるよう説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、運営推進会議で意見を聞くよう心がけている。	家族の来訪時等に意見・要望などを直接言って貰えるよう働きかけています。また、運営推進会議も家族の意見表出の機会となり、出された意見は運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や、法人で、個人ヒアリングを行っている。	管理者はミーティング時や日常での会話の中で職員の意見や要望を受け入れ、運営に反映するよう努めており、法人の個人ヒアリングも意見を聞く機会となっています。管理者は様々な場面で職員のチームワークの重要性を認識しています。	職員の離職が多く、十分な職員育成とは言えません。今後は、職員が生き生きと働ける環境の整備や、研修で学んだ知識や技術を共有し、利用者の安心した生活に繋げることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフト体制、法人で研修を行い向上心が持てるような環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、法人、外部も、可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム勉強会への参加、合唱団への参加等交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問したり、ホームに見学に来ていただき、要望など聞き取れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上、家族からもお話を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所が最良の支援なのか、まず検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行っていると感じられるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも通院等、できる限り、関わっていただくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には、感謝の気持ちを伝え、以前から通院していた病院には、ご家族の同意が得られれば継続していただいている。	家族の協力を得ながら、利用者の今まで大切にしてきた馴染みの理美容院や病院、デイサービス、趣味等、一人ひとりの生活習慣を尊重し、趣味や馴染みの場所との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、支えあう関係が築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉や表情等から思いを読み取るようにしている。	職員は利用者との日々の関わりで、言葉や表情、行動などから意思を汲み取り、その人らしい暮らしになるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも本人にも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子を記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて話し合った事、看護師や、医師からアドバイスをいただき、計画を作成している。	家族の訪問時や利用者の状況を説明する中で希望や要望を把握し、カンファレンス時にモニタリング・評価を繰り返し、本人本位の介護計画を作成しています。状況に応じその都度カンファレンスを行い、主治医等の意見も反映させた計画になっています。	ケース記録の様式が改善され、利用者の日々の様子がわかりやすく記録されていますが、介護計画に沿ってケアが実践されているか職員が常に確認できる記録の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記録すると共に、気づいたことは、ノートに記入し、引継ぎもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、個別の外出、デイサービスへの通所など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族の希望で、受信、往診を支援している。	受診は家族の希望があれば支援を行っています。かかりつけ医の往診もあり情報を共有しながら利用者の健康を保つよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護、緊急時は、24時間相談でき、気づいたことは、いつでも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたケースは少ないが、看護師、医師に相談しながら、早期退院に努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定めており、家族には説明医師、看護師の協力の下、常時、医療的な処置が必要でなければ、看取りに取り組む	重度化した場合や終末期のケアについての指針を定めています。利用者、家族にはあらかじめ説明をして希望にそった対応をしています。かかりつけ医や訪問看護ステーションをはじめ関係機関との連携を密にとり支援を行う体制を構築しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習、訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、地域の方にも参加いただいている。	年2回の避難訓練を行い1回は外までの避難訓練を行っています。町内会でかがやきの里支援活動について話し合っていた「かがやきの里緊急時協力名簿」を作成して緊急時の協力体制を築いています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動に留意し、尊厳を大切にケアするよう心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いに気を付けたりプライバシーに配慮しながら介護に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認したうえで、または、その様子から思いを汲み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、就寝時間なども、ご本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそりや、お化粧等、お手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けをしていただいたり、味見や、皮むき等、できることは、なるべく一緒にしていただき、後片付けは、一緒にしている。	食器洗いや食事の盛り付け、魚をさばいたり利用者とは身体状況に合わせた役割を担い職員と楽しい時間を持っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分摂取量を記録し、確保できているか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせて支援している。	一人ひとりのケース記録に排泄記録がチェックされていますが、介助が必要になった利用者には更に詳しく記録をしてパターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の目覚めに牛乳を提供したり、一日の水分量をチェックしながら、軽い体操を毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制上、毎日午後一時から四時くらいをめぐりに入浴していただいているが、その中で可能な限り、本人の希望で入浴していただいている。	週2回の入浴を基本に利用者の希望を優先して支援に努めています。拒否される利用者には辛抱強く声掛けをして気持ちを向けるように努めています。毎週日曜日には1階の足湯に浸かって楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりのペースにあわすようにはしているが、昼夜逆転や、寝てばかりということのないようには、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況は、わかりやすく工夫している。症状の変化にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内では、体操や、パズル、ちぎり絵等を用意し、散歩や、外出で気分転換できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、体調を考慮し、散歩に出かけているお祭りや、白鳥見物など、季節を感じられるようにも努めているが、家族や、地域の方に外出の協力は、求めたことはない。	天候を見ながら散歩に出かけたり、畑を見たり屋外に出ています。希望で熱帯植物がある緑のセンターやフラワーパラダイス、芝桜公園等車での外出支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、お金を持っている方は、殆どいませんが、所持している方には、お買い物の時など、見守りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話の取次ぎ、本人の希望があれば、電話をかける支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家庭と同じようにしている。	鉄筋コンクリート建物の2階、3階にあり居間、廊下はゆったりと配置されています。温度管理が適切になされており快適な空間となっています。廊下の中間には多数の腰掛が壁際に配置されており利用者の自立歩行の助けとなっており、行事の写真などと共に工夫された空間作りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファは、好きな時に利用者様同士くつろいでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、ベッドなどお持ちいただくようにしている。	一人ひとりタンスやベット、化粧台等馴染みの家具や、趣味の物を飾ったり仏壇を置いたりして居心地良く暮らせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけ、見守り、一部介助する事で、自立した生活が送れるよう援助している。		